**本栖湖: 古の湖**

本栖湖の湖底の最深部は120mであり、これは他の富士五湖の中で最も深い西湖の最深部のほぼ2倍の深さ、そして残り3つの湖と比べれば8倍の深さです。西湖と同様、本栖湖の名称も古剗の海に関係している可能性があり、一部では本栖湖という名前が「元の剗 (せ)」という意味だと考えられています。 本栖湖が比較的早い段階に剗の海から離れたことは明らかですが、西湖と精進湖の水位はまったく同じであり、地質学者はこれらの3つの湖は地下で繋がっていると考えています。

本栖湖を「住処」にする注目に値するものとして、遊覧船の「もぐらん」が挙げられます。その外観は潜水艦風で、1階には水中を観察できるのぞき窓がありますが、この船は潜水しません。この船が文字通り「潜らない」を意味するためにその名前が「もぐらん」となっているのです。

**国民に愛される風景**

本栖湖は、富士五湖の中で最も人里離れたところに位置しているため、その湖岸は、安らぎと静けさを求めるハイキングやキャンプを楽しむ人々の間で人気です。東岸の店の中には、カヌー、ウィンドサーフィンボードやSUP用具などのキャンプや水のスポーツ用品をレンタルしているところも数軒あります。本栖湖では動力船の乗り入れが禁止されており、自然のままの風や波の音を聞くことができます。

この湖からは、富士山を北東から眺めることができます。その景色は特徴的で、多くの場合人工建造物がまったく見えません。最もよく知られる景色のひとつは、2004年のデザインの千円札に描かれており、また1984年のデザインの五千円札にも使われています。この図柄は一生を富士山の撮影に捧げた岡田紅陽 (1895-1972) の写真に基づいたものです。今日に至るまで、日本の通貨に描かれている自然の風景は富士山のみです。